

第2回 (H30. 2)

節分と鬼

庭の片隅で丸々と太った落とうを見つけてました。立春はまだ先ですが、夕餉けの食卓には早くも春の香りが漂いました。

立春の前日、節分の恒例行事に豆まきがあります。この行事が一般庶民に広まったのは江戸時代ですが、名だたる寺社ではこの豆まきが大イVENTとなつて多くの参拝客を集めています。

豆まきの掛け声は、「福は内、鬼は外」が定番です。しかし全国的にみると「福は内、鬼も内」とか「福は内、福は内」(鬼を無視)など、「鬼」の扱いが違ったものもあります。

前者の「鬼も内」と広い心で呼びかけるのは、奈良県吉野の名刹金峯山寺。鬼どもを招き入れ仏教の力で改心させるのだそうです。一方、「福は

内」のみを繰り返すのは千葉の成田山新勝寺。お不動さんの前には、そもそも鬼はいないとのこと。いずれも宗教的自信に満ち溢れています。

ところで、私にとって「鬼」とは何だろう？ 節分を前にちょっとだけ考えてみることにします。